

## 科学と社会委員会 市民と科学の対話分科会（第二回）

### 議事録

1. 日時 : 平成30年3月16日（金）16:00～18:00
2. 場所 : 日本学術会議5A-(2)会議室
3. 出席者: 遠藤委員長、平井副委員長、江守幹事、高橋委員、所委員、中村委員  
参考人: 石橋一郎課長補佐（文部科学省 科学技術・学術政策局 人材政策課）  
（事務局）: 糸川参事官、高橋参事官補佐、石尾専門職付、大澤専門職付

#### （1）「サイエンスカフェ」に関する共通理解

- 3月2日に遠藤委員長と江守幹事が文科省の石橋課長補佐と意見交換を行った。
- 参考人としてご出席頂いた石橋課長補佐に、現在の文科省主催のサイエンスカフェの考え方についてお話を伺い、意見交換を行った。
- 主として以下のような議論があった。
  - 文科省のカフェが目指す「共創」とは？→多様なステークホルダーとの対話・協働。
  - グラフィックレコーディング（ギジログ）はどんな人がしている？→できる人の伝手があった。ほぼボランティア。
  - もし再び日本学術会議と共催するとしたら、何を期待されるか？→サイエンスカフェとして必要な要素をそれぞれ持ち寄ること。ただし、日学が確かなサイエンスレベルを提供できるのに対して、文科省のカフェはレベルが少し違うところに広げようとしている。
  - サイエンスカフェが国の今後にどんな役割を果たすか？→理解増進ではなく、共創に向けたつながる場。科学技術基本計画の変遷にみられるように、知の在り方が変わってきている。
  - 過去の報告を見ると、日学のサイエンスカフェは理解増進でうまくいっている場合もあり、それに適したテーマも、社会のニーズも一定あるようだ。今後は、そういう回があってもよいし、共創を目指す回があってもよい、と考えてはどうか。
  - 関心がある人しかカフェにはこない。関心のあり方を動かすのは難しい。関心のある人に場の存在を知ってほしい。

#### （2）今年度のサイエンスカフェ東京開催について

- 文科省とすぐに共催ということにはならないが、文科省と日学のサイエンスカフェが今後も意見交換や情報交換などのさまざまな形で協力していくことについて、合意が得られた。

- 文科省と一緒に「サイエンスカフェ像」を探りつつ、そのうちシンポジウムを共催してはどうかという案が出た。
  - JST や日本科学未来館の協力の可能性について、渡辺副会長、未来館の毛利館長、遠藤委員長、江守幹事が3月28日に意見交換をするので、追って報告する。
  - 日学のサイエンスカフェは文科省と日をずらして、たとえば偶数月の開催を検討するという案が出た。
  - 6月の開催についてはメールで相談することになった。
- (3) サイエンスカフェ地方開催について
- 以下のような議論があった。
    - 知の流通の地方活性化をはかるため、引き続き推進したい。
    - 広報等で文科省と協力できるのではないか。
    - 地方でサイエンスカフェを開催する主体が、日学の訴求効果をメリットと感じているのではないか。
    - 一方で、多ければよいかという問題もあるのではないか。(質も問題である)
- (4) その他
- 来年度のサイエンスアゴラについて、日学が主催団体としてかかわるのかどうか、議論が必要。また、江守幹事がJSTのアゴラ推進委員であるため、本分科会に随時情報提供を行う。
  - 「学術の動向」(所委員が編集分科会副委員長)でサイエンスカフェのあり方の特集を組んではどうかという案が出た。
  - サイエンスカフェの情報はJSTのサイエンスポータルに、日学主催のサイエンスカフェの情報は日学のウェブサイトに一覧があることが紹介された。
  - 石橋課長補佐には、今後毎回、本分科会への参考人としてのご出席をお声がけすることになった。
  - 次回分科会の開催は、追って日程調整する。

以上